

科目名	健康生活看護学(小児援助)			ナンバリング	PEN441	授業形態	演習
対象学年	2年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2単位
代表教員	レンデンマン美智子	担当教員					

授業の概要	子どもの成長発達、健康障がい段階に応じた子どもとその家族が、より良く生活・療養するための援助の方法について学ぶ。健康障がい子どもの成長発達や家族機能に及ぼす影響について学ぶとともに、子どもの特性を踏まえ、病態、症状、看護を関連づけて、小児看護援助に関する必要な知識と技術を身につける。また、その子どもの成長発達の特性、健康状態、家族のニーズを考慮した適切な看護援助が実践できる方法を学修する。
到達目標	1. 子どもに起こりやすい疾患と看護の実際を説明することができる。 2. 様々な健康問題を持つ子どもと家族への看護実践のための看護過程の展開と基本的技術を演習を通して習得することができる
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	基礎的な知識・技術の上に子どもの成長・発達、様々な状況におかれた子どもと家族の特徴を理解することが重要であり、そのことから小児看護に必要な知識・技術の習得が可能になる。そのためこれまでに学んだ講義の教科書・資料等を用いて知識・技術を復習しながら本講義の学習に取り組む。
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。
	○ 2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。
	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。
	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。
	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 子どもに起こりやすい疾患と看護実践について説明することができる。 2. 健康障がいを持つ子どもと家族の看護過程の展開方法を説明することができる。	1. 子どもを統合的にとらえ起こりやすい疾患と看護の実践について説明することができる。 2. 健康障がいを持つ子どもと家族の個性をとらえた看護過程の展開が説明できる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)	○	○					50%
小テスト・授業内レポート	○	○					20%
宿題・授業外レポート	○	○					20%
授業態度・授業への参加			○	○			10%

課題、評価のフィードバック	1. 小テストは授業内に解説する 2. 60点以下の学生には、学習指導を行い一定期間をおいて再試験を実施する
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンスー 乳児期の子供の健康障害と看護-1	先天性代謝、遺伝子異常: 21トリソミー、18トリソミー、クラインフェルター症候群、ターナー症候群などについて概説する	
	第2回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-2	代謝異常: 内分泌疾患(糖尿病)、甲状腺疾患などについて概説する	
	第3回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-3	免疫、アレルギー性疾患: 気管支喘息、食物アレルギーなどについて概説する	
	第4回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-4	感染症: 髄膜炎、ウイルス感染症、細菌感染症などについて概説する	
	第5回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-5	呼吸器疾患: 気管支炎、肺炎について概説する	
	第6回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-6	循環器疾患: 先天性疾患、川崎病などについて概説する	
	第7回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-7	消化器疾患: 胃、十二指腸、小腸疾患、大腸疾患などについて概説する	
	第8回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-8	症状一発熱、脱水、嘔吐、疼痛の看護の理解	
	第9回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-9	血液、造血疾患: 貧血、血友病などについて概説する	
	第10回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-10	悪性新生物: 白血病などについて概説する	
	第11回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-11	腎、泌尿器疾患: 腎障害、ネフローゼ症候群などについて概説する	
	第12回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-12	神経疾患: けいれん、脳性麻痺などについて概説する	
	第13回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-13	運動器疾患: 先天性股関節脱臼、骨折などについて概説する	
	第14回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-14	ヘルニア、アデノイド、扁桃腺などについて概説する	
	第15回	乳幼児期、学童期の健康障害と看護-15	終末期: 死を迎えつつある人の看護、緩和ケアなどについて概説する	
		試験	中間試験を実施しない	

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	第1回—第15回のまとめ 子どもの救急看護	救急蘇生のデモンストレーション 今までに学習した疾患と看護の理解を確認する。	
	第17回	小児看護に必要な看護技術①	入院している子どもの生活環境や子どもの事故防止・感染防止について概説する。	
	第18回	小児看護に必要な看護技術②	子どもの成長・発達に応じた基本的な小児看護技術について概説する。 (フィジカルアセスメント・バイタルサイン測定)	
	第19回	小児看護に必要な看護技術③	子どもの成長・発達に応じた日常生活の援助技術について概説する。 (調乳・離乳食・経管栄養)	
	第20回	小児看護に必要な看護技術④	子どもの成長・発達に応じた日常生活の援助技術について概説する。 (清潔・排泄・与薬)	
	第21回	小児看護に必要な看護技術⑤	子どもの成長・発達に応じた日常生活の援助技術について概説する。 (検査・遊び・プレパレーション・ディストラクション)	
	第22回	小児看護に必要な看護技術⑥	子どもの成長・発達に応じた小児看護技術について演習する。	
	第23回	小児看護に必要な看護技術⑦	子どもの成長・発達に応じた日常生活の援助技術について演習する。	
	第24回	小児看護過程の演習①	健康障がいを持つ子どもと家族に対する看護過程について概説する	
	第25回	小児看護過程の演習②	健康障害を持った子どもの事例から子ども・家族の健康状態、ニーズを適切に捉え、具体的な看護計画について演習をする。(アセスメント)	
	第26回	小児看護過程の演習③	健康障害を持った子どもの事例から子ども・家族の健康状態、ニーズを適切に捉え、具体的な看護計画について演習をする。(アセスメント)	
	第27回	小児看護過程の演習④	健康障害を持った子どもの事例から子ども・家族の健康状態、ニーズを適切に捉え、具体的な看護計画について演習をする。(看護計画)	
	第28回	小児看護過程の演習⑤	健康障害を持った子どもの事例から子ども・家族の健康状態、ニーズを適切に捉え、具体的な看護計画について演習をする。(援助計画)	
	第29回	小児看護過程の演習⑥	健康障害を持った子どもの事例から子ども・家族の健康状態、ニーズを適切に捉え、具体的な看護計画について演習をする。	
	第30回	小児看護過程の演習⑦	健康障害を持った子どもの事例から子ども・家族の健康状態、ニーズを適切に捉え、具体的な看護計画について演習をする。	
	試験	期末試験を実施する。日程については後日掲示板を確認すること。		
授業の進め方		講義と演習とする。		
授業外学習の指示		教科書・配布資料を参考に予習・復習をする。不明な点は教科書・配布資料で確認をするか教員に質問をすること。余裕があれば小児看護技術の習得ができるように練習を積むこと。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	ナーシング・グラフィカ小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 ISBN978-4-8404-4919-9
参考書	小児臨床看護各論一 医学書院 ISBN978-4-260-0990-2、メジカルフレンド社、南江堂、看護のための臨床病態学 南山堂
参考URLなど	なし
その他	